

### 1 自己評価及び第三者評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2875201101		
法人名	有限会社 パートナー		
事業所名	グループホーム パートナー伊川谷		
所在地	兵庫県神戸市西区南別府4丁目368-1		
自己評価作成日	令和1年11月22日	評価結果市町村受理日	令和1年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.wam.go.jp">http://www.wam.go.jp</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人CSウオッチ
所在地	兵庫県明石市朝霧山手町3番3号
訪問調査日	令和1年12月5日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様との寄り添いを大切にし、レクリエーションに力を入れ、共同制作や個々の趣味に合わせた散歩やドライブ等、日々ゆったりと穏やかで意欲的な生活を送っていただける様心掛けています。

#### 【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【優れている点】・毎月「パートナー通信「WITHウイズ」」を発行し利用者の行事参加や日常生活写真を掲載し、定期的に家族に送付等行い喜ばれている。・各階は静かな雰囲気をお好む方や楽しく語らう方等利用者特性に応じた割り当てを行い、夫々が楽しく日々を過ごされる工夫をしている。【工夫点】・施設立地特性を活かし階下の保育園児との交流や医院、隣の薬局等訪問の方たちと外出維持挨拶など行える工夫をしている。・話し好きな方、一人静かに過ごしたい方などその方の暮らし方等を配慮して各階のメンバーやお部屋を決めている点。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2875201101		
法人名	有限会社 パートナー		
事業所名	グループホーム パートナー伊川谷		
所在地	兵庫県神戸市西区南別府4丁目368-1		
自己評価作成日	令和1年11月22日	評価結果市町村受理日	令和1年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.wam.go.jp">http://www.wam.go.jp</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人CSウオッチ
所在地	兵庫県明石市朝霧山手町3番3号
訪問調査日	令和1年12月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様との寄り添いを大切にし、レクリエーションに力を入れ、共同制作や個々の趣味に合わせた散歩やドライブ等、日々ゆったりと穏やかで意欲的な生活を送っていただける様心掛けています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【優れている点】・毎月「パートナー通信」WITHウイズ」を発行し利用者の行事参加や日常生活写真を掲載し、定期的に家族に送付等行い喜ばれている。・各階は静かな雰囲気をお好む方や楽しく語らう方等利用者特性に応じた割り当てを行い、夫々が楽しく日々を過ごされる工夫をしている。 【工夫点】・施設立地特性を活かし階下の保育園児との交流や医院、隣の薬局等訪問の方たちと外出維持挨拶など行える工夫をしている。・話し好きな方、一人静かに過ごしたい方などその方の暮らし方等を配慮して各階のメンバーやお部屋を決めている点。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中に「地域住民と共に」を掲げ、職員が常時、目につく様掲示板に掲示し、日々理念を共有し、実践している。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念は各階廊下の掲示板に掲載し、管理者と職員は理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	階下施設の園児を迎えての行事や外出時(お散歩やドライブの時)地域の方と挨拶を交わしたり、同ビル内の医院の往診や隣接している薬局の方が訪問されるときに日常的に交流している。	利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう散歩時に立地特性である1階の保育園、2階の医院及び隣接の薬局にこられる地域の方と挨拶を交わしたりして地域の一員としての日常交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同ビル内の医院と隣接している薬局にGHパートナーパンフレットを設置させて頂き、認知症への関心を持って頂く様、努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回奇数月の第3水曜日14:00~15:00に開催している。ご家族様に興味を持って頂ける議題を用意している。近隣のGHの管理者にも参加してもらい、パートナーも近隣のGHの運営推進会議参加し交流を深めて情報交換を行い自施設のサービスの向上の努めている。	運営推進会議は、地域包括担当者、同業他社参加のもと2ヶ月毎に開催し、各会変化動向に伴う議題に基づき、行事实施(写真)、事故、ヒアリハット報告、話し合いを行い、これらからの意見等サービス向上に活かしている。	評価の取組状況、事故・ヒアリハット数の推移や見える化等報告の工夫推進による参加者意見・提案等議事録記載が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	年4回開催されている西区GH連絡協議会に参加し、各GHの現状報告や最新の情報を交換し、情報の共有の場として、積極的に参加し協力関係を築けるよう取り組んでいる。	管理者は市担当参加の西区GH連絡協議会に積極的に参加し、各GH現状報告、情報交換し、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入社時個別に研修を行い、年1回(12月)に身体拘束について全体研修を行っている。研修時の内容についてスタッフはレポートを提出し、身体拘束をしないケアについて理解し、実践する様、掲示板にも身体拘束について掲示しており、日々実践している。	身体拘束をしないケアの実践に向け、入社時個別研修と全体研修会を行い研修後レポート提出し理解を深め、かつ掲示板にも身体拘束に関する掲示をし身体拘束をしないケアに取り組んでいる。エレベーターホールが入口故、前に立つとチャイムが鳴るセンサーを付けている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入社時個別に研修を行い、年1回(4月)に高齢者虐待について全体研修を行っている。研修時の内容について、スタッフはレポートを提出し、高齢者虐待をしないケアに取り組み、掲示板にも高齢者虐待について掲示し日々実践している。	身体拘束と同様に入社時研修と4月に虐待防止全体研修を実施している。研修後レポートを提出し虐待が見過ごされることがないようにチェックし防止に努めている。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当施設では現在2名の方が成年後見制度を活用されており、支援している。	現在数名の方が成年後見制度を活用されており、個々の必要性を関係者と話し合っている。	社会福祉協議会等で権利擁護に関する資料入手による勉強会の開催による更なる活用支援に向けた取り組みが期待される。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時事前にご家族・ご利用者様に施設を見て頂きご不安な点や疑問点を訪ねて頂き、ご納得のいくまで説明した上で、ご契約書をお互いに読みながら説明を実施し、充分納得した上で、契約して頂くよう努めている。	見学時を活用し、利用者・家族の施設見学後、関心事を尋ね契約に関する資料を説明し、理解を図り、納得して頂くよう努めている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を設置し、夏祭りやお誕生日会等、ご家族様の参加行事を設け、ご意見をいただく機会を作っている。 要望等はミーティングで検討し、反映させている。	利用者や家族が意見、要望を管理者や職員に表せる機会としてエレベーターホール(入口)に苦情受付、ご意見箱を設置し、要望等はミーティングで検討し、運営に反映させている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月第2水曜日全体ミーティングを開催し、各フロアの交流も兼ね、話し合いの場を設けている。	代表者は、毎月の全体ミーティングで各フロア交流を兼ね職員意見や提案等話し合う場を設け職員間のハラスメントや利用者の暴言等への対応などを検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	平成20年11月より就業環境については、「中土井社会保険労務士事務所」と委託契約をし、職員が向上心を持ち働ける環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自施設での研修はもちろん、外部研修も人材不足のなか1人でも多く受講していただく様努めている。 今年度は1名実施者研修を受講予定です。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者が西区GH連絡協議会や他施設の運営推進会議に積極的に参加し、交流の機会を持ち、自施設の悩みや問題点を相談したり、逆に相談を受けたりアドバイスを行ったり、相互にサービスの質の向上に努めている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居時ご本人様を交え面談を行い、コミュニケーションを取り合う中で情報収集に努め、全職員が情報共有でき、グループホームの個別ケアの観点に添った介護支援に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご面談時にご家族様のお話に耳を傾け意向をお伺いする様にしている。そのうえで当施設の介護支援の方向も十分にお話させて頂き、無理のない程度のご協力をお願いし、良好な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様の身体状態に合った生活が送れる様なニーズの把握に努めている。ご希望者には週3回の接骨院の施術等の利用も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の出来ない事に視点を置くのではなく、出来ることに着目し、日常生活の中で役割が持てる様にご本人様の居場所を確保できるように支援をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご面会時にご本人様の日々の様子、身体状況の報告をさせて頂く事でご家族様と職員との信頼関係を築くと共に遠方のご家族様や面会に来られないご家族様にはお電話でご報告させて頂きご本人様との関係が希薄にならない様に努めている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様との外出や連絡、施設のイベント等への参加呼びかけを行い関係が途切れないよう支援している。	これまで本人を支えてくれた地域での関りを把握しできるだけ地域と接点を持ちながら関係を継続させるために支援している。家族と一緒に昼食に出かけたり夏祭り等イベントに馴染みの方々に声をかけ継続的な交流ができよう働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアでの食事、レクリエーションの参加を促し、共同空間を作ることにより、入居者様同士がコミュニケーションを取れる環境作りに努めている。月1回の音楽療法には皆様楽しんで参加されている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在、相談や支援を必要とされている対象の方がなく、関係を断ち切らない取り組みは行っていない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前、入居時に行う面談の中でご本人様・ご家族様等の希望、意向を読み取る様に努め困難な場合はご本人様との日々の生活の中で時間をかけ読み取りご本人様に添ったケアプラン作成に努めている。	職員は本人、家族の想いに寄り添いながら、日々の暮らしの中で思いや出来事など気づきの情報共有に努めている。本人を支えるために家族と同じような思いで支援している、日々気づきは朝夕の申し送りや特記事項に記録し職員で共有している。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご面談時ご本人様・ご家族様等から生活歴等を伺い、詳しいアセスメントシートを作成、職員間で情報を共有し、ご本人様らしく今までと変わらない生活ができるように支援に努めている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常にご利用者様に寄り添い、心身状態に気配る様に努め、対応の方法や介助の方法について情報交換を密にし、一人ひとりに合った支援を心掛けている。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のカンファレンスでモニタリングを行い現状を職員間で話し合い、現支援が適切か新しいニーズはないか等を探り、ご家族様等の意向や意見を踏まえ計画を見直しより現状に合った介護計画の作成に努めている。	ご本人や家族には日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き、反映させるようにしている。体重減少や浮腫など状態変化時はミーティングで話し合い現状に合ったケア内容に変更し対応している。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にはご本人様の情報や職員とのやり取りの対応、ご家族様からの連絡、特記事項等の記入や連絡票等にも情報を記入、共有しながら支援に努めている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様・ご家族様のニーズに対応出来る様に外部からの支援や施設内で出来る可能なサービスを考え、柔軟に対応出来る様に取り組んでいる。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同ビル内にある医療機関(泌尿器科・歯科)が利用者様の状態に合わせて対応してくれている。同ビル内の保育園より園児が慰問し、一緒に時間を過ごす等している。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本は施設往診に来られる医師が主治医ですがご本人様・ご家族様の希望がある場合は他の医療機関において適切な医療が受けられるように支援している。	一人ひとりの利用前に受診の経過、現在の受診の希望を把握し本人やご家族が希望する医療を受けることができる。月2回往診医の訪問があり24時間体制が整備されている。薬剤師との連携も構築され変更や相談など行える。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中での情報や気付きは職員間で連携を取り主治医等に報告、指示を仰ぎ、薬局等の協力を得て適切な受診や処置が受けられるように支援している。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーの提供を行い、医療機関において安心して治療が受けられるように、また入院期間中ご家族様や病院と連絡を取り、ご本人様の状態の把握に努め早期退院に向け病院・ご家族様と情報交換を行い現状に添った支援を提供できるように努力している。	入院時には主治医の紹介で入院目的を伝え病院関係者と情報交換等を図る体制が整っている。入院によるダメージを極力防ぐため事業所で対応可能な限りなるべき早く退院できるように調整している。家族と共に回復状況等を確認し速やかな退院支援に結び付けている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、重度化した場合、終末期の意思表示を文書にて確認、年2回の家族会(5月、11月)にはご家族様等に再確認し、終末期においては医療機関、介護職員介護支援専門員でカンファレンスを行い最良の終末期を迎えられるように支援している。	本人や家族の意向、本人にとってどうあったら良いか、事業所が対応する最大の支援方法を踏まえ、方針をチームで検討し取り組んでいる。延命に関する意思等を年1回家族へ報告書と共に送付し確認をしている。医師や看護師と連携を図り安心して納得した最期を迎えられるように話し合い進めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時の備えについては緊急時持ち出しファイルのなかに手順を記載し、全職員はファイルの設置場所の把握を徹底し、感染症、急変、事故発生に備えて定期的に確認をしている。研修については定期的に行っていないので今後は努力していきたい。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練(1回は夜間を想定した訓練)を行っている。避難方法は消防より指導して頂いた最良の避難方法をマニュアル化し、全職員周知している。災害時に備えて食料・水を備蓄している。	年2回の昼夜想定避難訓練を実施し1回は消防立会で実施、消防指導による最良の避難方法をマニュアル化し、職員周知を図っている。ベランダの一角に階下への避難用滑り台が設置されている。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフは常にご入居者様お一人おひとりの人格尊重するのはもちろん性格等に合わせて言葉かけや対応を行っている。誇りやプライバシーを損ねないようにご入居者様お一人おひとりの違いの尊重、さりげない介護援助を行いご本人様が思っている「現実」を否定しない。言葉かけは特に研修等で習得した幼児言葉を使わない・命令調にならないよう気を付けている。又排泄介助の気使いも心がけている。	誇りやプライバシーを損なわないような言葉かけをしないよう日頃から利用者が発している言葉の内容や語調等を確認と改善に向け取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者様がお一人おひとりの自己決定、希望を大切にしている。自己決定が困難な方には情報をできるだけ少なくし、選択できるように工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者様お一人おひとりの生れてからこれまで生活歴、ご本人様にとって大切な経験や出来事をスタッフはカンファレンス・ミーティング等でスタッフ同士情報を共有し、その人らしい暮らしや尊厳を支援する様に常に話し合い努力し、決して無理強いを行わない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時、施設での行事がある時にはよそ行きの身支度、お化粧を手伝わせて頂いたり、理容師による髪の毛のカットは2か月に1回来ていただいている。希望があれば好みの美容院等へ行かせて頂いている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年に数回のケータリングや馴染みのお店からのお弁当等を注文し、日々の食事に季節ごとに味わうメニューを取り入れている。	食事を楽しむために食事の盛り付けや片付けなど個々の力を活かしながら職員と共におこなっている、夏祭りやクリスマス等は幕の内弁当やサンドウィッチを取り入れ食を通じ様々な取組を活かし1日の大切な活動の一つにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日水分量・食事量をチェックしており、ご利用者様に常にお茶とお菓子を用意させて頂き、嗜好の物を伺い提供させて頂いている。又お食事でも普通食に限らず、お一人おひとりに合った形状のお食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お一人おひとりに合わせて口腔ケアを行っている。歯ブラシが困難な方にはハミングッド等を使用している。ご利用者様が入れ歯等困難が生じた場合同ビル2Fの歯科受診を受け歯科医の指導を受けている。		



自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	高齢化や介護度が進行し、困難になっているが、排泄チェック表に記入し、排泄パターンを把握し、声掛け誘導を行い自立に向けた支援を行っている。重度化した方もポータブルトイレを利用する等、排泄支援を行っている。トイレ誘導の声掛けにも気を配っている。	自尊心に傷は配慮し、利用者の様子から敏感に察知し、身体機能に応じ手を差し伸べたり、歩行介助をしている。トイレでの排泄を大切にしながら失敗した場合でも極力本人が傷つかないように手早く、周囲に配慮しながら対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を目標に水分量・食事量・運動量はこまめにチェックしている。ヨーグルトを飲んで頂いたり腹部マッサージ等行っているが薬に頼らなければならないのが現状である。カンファレンスで常に話し合っている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日が週2回(火・金)と固定になっている中でお一人おひとりの入浴のタイミングを探りながら入浴を楽しんで頂けるようにコミュニケーションを取りながら入浴タイムを支援している。重度の方は体調を考慮し、週1回と清拭を試みている。	週2回その日の要望に沿いながら無理強いせずに入浴して頂く。入浴を拒む方に対しては、声掛けや対応の工夫をして、安心感を持ってもらえるよう工夫し利用者の心情をさった入浴支援を試みている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間はレク等で活動して頂けるよう支援しているが、お一人おひとりに合わせお昼寝が習慣の方やその日の体調等に合わせ支援している。夜間の安眠の為、なるべく昼間リビングで過ごして頂けるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人個人の服薬管理表はスタッフが閲覧できるようにしており、スタッフは薬の目的について理解している。お薬の管理も薬剤師の方がされており、服薬時利用者様のお名前を読み上げ服薬ミスがない様に努力している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎朝テレビ体操と手の体操を取り入れている。カラオケや塗り絵、洗濯たたみやお食事の盛り付けやお盆拭き・洗い物等役割を持って頂き、日々の張り合いになる様支援している。月1回の音楽療法も楽しみの一つです。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お散歩がお好きな方はスタッフと一緒に近所をお散歩されたり、ドライブに出かけられるよう支援している。今年も初詣にも行かれました。	屋内だけで過ごすストレスもたまりやすい、短時間でも屋外に出る機会を作るようにしている。週3回はドライブに出かけたり、気候に合わせて近隣の公園へ車いすの方も散歩に出かけたりしている。ベランダにベンチを置き外気に触れ気分転換を行う貴重なチャンスとして工夫し活かしている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状ご利用者様がお金を所持する事はないのですが、事務所でお預り金として個別に管理し、必要な物、嗜好の物がほしい時には、ご利用者様の希望に添うように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の電話を使ってご家族様へ連絡やご自身の携帯を使われてお電話されている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示板や玄関(EVホール)には季節の物を飾り時節を感じて頂けるように心掛けている空気清浄機付加湿器をリビングに置き、湿湿度を調節している。玄関とトイレにはセンサーライトを取り入れ心地よく過ごして頂けるよう工夫している。	共用の空間は利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないよう配慮し、利用者との共作のお誕生会作品やクリスマスに合わせた飾りを掲げ居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様同士の関係を理解し、リビングには、テーブルを5~6こ設置し、それぞれの居場所を作っている。ご利用者様の希望により職員は臨機応変に対応し、寛げる空間づくりに対応している。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居の際ご自身の愛着のある生活用品を持って来て頂いてご使用して頂いている。現在家族写真を貼っている部屋は継続しご入居者様の状態に合わせてできる限り家族写真を用意している。	入居時に家族と相談し、愛着のある生活用品等や家族写真等は、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで安全な環境を整えている。1か月に1回カンファレンスを行いご利用者様お一人おひとりの現状について話し合い、それぞれ現状に合わせた介護支援が行われるように努力している。		